



### <来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
7/5 (月)	+ 700	▲ 5,900	▲ 5,200	国庫短期証券 発行償還(3M)		国債買入 + 10,700 ETF買入 + 600	日: 日銀黒田総裁挨拶(日銀支店長会議) 地域経済報告(7月) 米: 休場(独立記念日振替休日) 欧: ユーロ圏総合PMI(6月)
7/6 (火)	トン	+ 3,000	+ 3,000				米: ISM非製造業景況指数(総合/6月)
7/7 (水)	トン	▲ 9,000	▲ 9,000	国債発行 (30年)	共通担保 ▲ 3,800		日: コール市場残高(6月) 米: FOMC議事要旨(6/15,16分)
7/8 (木)	トン	+ 3,000	+ 3,000				日: 国際収支(5月) 米: 新規失業保険申請件数(3日終了週)
7/9 (金)	▲ 1,000	▲ 25,000	▲ 26,000	国債発行 (5年)			G20財務相・中央銀行総裁会議(10日まで) 日: マネーストック(前年比/6月) 米: 卸売売上高(前月比/5月)

### <インターバンク>

日銀当座預金残高は週初534兆3,900億円から始まった。その後は29日の国債買入オペ、30日の国庫短期証券買入オペ等増加要因が続いたが、週末2日には法人税・消費税・保険料の揚げがあり同残高は529兆5,500億円と週初対比4兆8,400億円減少した。

無担保コールON物加重平均金利は、先週末とほぼ同水準の $\Delta 0.030\%$ から始まったが、四半期末30日は調達を見送った先が多く $\Delta 0.050\%$ まで低下した。7月に入ると都銀・信託業態の調達ニーズがやや強まり、週末2日に $\Delta 0.027\%$ まで上昇した。ターム物では1W~2W物を中心に主に $\Delta 0.020\% \sim \Delta 0.010\%$ の水準で出会いが見られた。

日銀が1日に発表した6月の全国企業短期経済観測調査(短観)によると、大企業の業況判断指数(DI)はプラス1と、前回3月調査から2ポイント改善した。プラス圏に浮上するのは2020年3月調査以来5四半期ぶりとなった。来週の主な予定は、国内では日銀黒田総裁の支店長会議での挨拶(5日)や地域経済報告(さくらレポート)の公表(5日)などがあり、海外では米FOMC議事録(6月16日・17日分)の公表(7日)やG20財務相・中央銀行総裁会議(9日)などがある。

### 【無担保コールレート】

	予想レンジ (%)
O/N	$\Delta 0.070 \sim 0.001$
1M	$\Delta 0.050 \sim 0.020$
2M	$\Delta 0.010 \sim 0.050$
3M	$0.000 \sim 0.100$
6M	$0.000 \sim 0.130$

### 【オープン市場】

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	$\Delta 0.050 \sim 0.000$
CP 3M	$\Delta 0.080 \sim 0.000$

### <レポ>

足許GC取引は週初 $\Delta 0.085\% \sim \Delta 0.08\%$ の出会いから始まった。受け渡しが6月末となる29日の取引では、一時 $\Delta 0.10\%$ 近辺の取引も見られたが、後場は $\Delta 0.09\%$ 近辺で出合った。その後は再び $\Delta 0.085\% \sim \Delta 0.08\%$ の出会いが中心であったが、短期3Mの発行日である7月2日の取引は、 $\Delta 0.075\% \sim \Delta 0.07\%$ の水準まで上昇し越週した。SC取引では2年409~425回債、5年136~147回債、10年331~362回債、20年164~176回債、30年59~70回債、40年9~14回債などに引合いが見られた。

### <CP>

今週の入札発行総額は約1兆5,900億円で、週間償還額(約1兆9,300億円)を下回った。入札発行市場は、事業法人による期末の負債調整の影響から償還が進んだ一方で、期明けから電気機器や鉄鋼等の業種で大型の発行が見られた。週を通して活況な展開となったが週間では償還超となった。発行残高は先週末の24兆5,083億円から、1日時点で23兆3,278億円に減少した。発行レートは、6月末の大量償還を見据えたディーラーのCP引受需要が強く、複数の銘柄で大幅なマイナスレートでの約定が観測され、 $\Delta 0.08\%$ 台~ゼロ%近辺での出会いであった。25日に、CP等買入オペが予定通り5,000億円でオフアされた。結果は、按分レート $\Delta 0.01\%$ ・平均落札レート $\Delta 0.004\%$ と前回(按分レート $\Delta 0.006\%$ ・平均落札レート $\Delta 0.004\%$ )比で案分レートは低下した。応札倍率も1.38倍と前回(1.99倍)比低下。期末の大量償還が見込まれるなか、投資家のCP売却ニーズが低下し、オペレートの低下に繋がったものと考えられる。来週の週間償還額は、約700億円程度となっている。発行市場は、期明けの発行再開に伴い大型の発行も見込まれることから、発行超を見込む。発行レートは、投資家のコロナオペ担保目的等のCP引受需要が強く、オペ対象となる希少銘柄等に対しては引き続き深いマイナス金利での出会いが予想される。

### <TDB>

7月2日の3M1005回債(10月4日償還)の入札は、最高落札利回り $\Delta 0.0962\%$ (前回債 $\Delta 0.0962\%$ )、平均落札利回り $\Delta 0.0998\%$ ( $\Delta 0.0982\%$ )と前回債とほぼ同様の結果となった。来週は8日に6M、9日に3Mの入札がある。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではありません。今後予告なく変更されることがあります。